

日本物理学会第76回年次大会(2021年) 領域7インフォーマルミーティング議事録

日時: 2021年3月15日(月) 18:00 ~

場所: オンライン開催

主催: 領域7(運営委員)

+++++

議題目次

1. 学生優秀発表賞 表彰式
2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
3. 次期領域代表、副代表の紹介
4. 次期領域運営委員の紹介
5. 次々期領域運営委員の選出・承認 **【審議事項】**
6. メーリングリスト運用に関して
7. 概要集提出率に関して
8. 関連会議・シンポジウムの紹介
9. 次回大会について
10. 言語の英語化について **【審議事項】**
11. 学生優秀発表賞について **【審議事項】**

+++++

1. 学生優秀発表賞 表彰式

領域代表・副代表・運営委員の経験者および候補者からなる 10 名に審査を依頼し、以下の観点で審査を行った。

- 研究内容(研究の意義、新規性、妥当性)
- プレゼンテーション(ポスターの構成、伝わりやすさ、質疑応答)

その結果、以下の2名を受賞者として選出し、表彰式を行った。

- ◇ PSG-8 一ノ瀬 遥太 (東京都立大)
「半導体型ナノ材料における熱電物性の一次元性」
- ◇ PSG-10 菅原 佳哉 (埼玉大学)
「新規有機電荷移動錯体(BEST)₂CuCl₂における 10 K 級圧力誘起超伝導の発見」

また今回は学生優秀発表賞をなるべく多くの方に知っていただくための新しい試みとして、受賞記念発表(10分以内、質疑応答なし)を実施した。

一ノ瀬さんは都合により表彰式に不参加だったが、発表ビデオを送付いただき、それを再生し

発表とした。菅原さんはその場でスライドを使用し発表した。

2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介

領域代表：

岡田 晋 先生（筑波大）【任期：2020年4月～2021年3月】

領域副代表：

小形 正男 先生（東大）【任期：2020年4月～2021年3月】

領域運営委員：

野村 悠祐（理研）【任期 2020年4月～2021年3月】

土屋 聡（北大）【任期 2020年4月～2021年3月】

田縁 俊光（東大）【任期 2020年10月～2021年9月】

小林 晃人（名大）【任期 2020年10月～2021年9月】

3. 次期領域代表、副代表の紹介

領域代表：

小形 正男 先生（東大）【任期：2021年4月～2022年3月】

領域副代表：

長谷川 達生 先生（東大）【任期：2021年4月～2022年3月】

4. 次期領域運営委員の紹介

領域運営委員：

田縁 俊光（東大）【任期 2020年10月～2021年9月】

小林 晃人（名大）【任期 2020年10月～2021年9月】

渡部 洋（立命館大）【任期 2021年4月～2022年3月】

小林 拓矢（埼玉大）【任期 2021年4月～2022年3月】

5. 次々期領域運営委員の選出・承認 **【審議事項】**

現運営委員により、次々期運営委員として以下の方々を選出し、承認された。

次々期領域運営委員：

橋本 顕一郎（東大新領域）【任期 2021年10月～2022年9月】

明石 遼介（東大院理）【任期 2021年10月～2022年9月】

6. メーリングリスト運用に関して

以下の内容を周知した。

- 現在のメーリングリストの状況
アドレス数上限：1000
登録アドレス数：968 (2021年3月10日現在)
(勝手ながら、講演者のアドレスは運営委員が登録しています。)
- 卒業などで使われなくなったアドレスについて削除の連絡をお願いします
- なお、研究室 ML によって登録されているアドレスからは bunyu4@r7.div.jps.or.jp, committee_r7@jps.or.jp への投稿はできません。
(投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレスをお持ちの方にお問い合わせするか、運営委員のメールアドレスに直接、ご連絡をお願いします)

7. 概要集提出率に関して

2021年年度大会における領域7の概要集提出率は94.5%であり、全領域中9番目であったことを報告した。

8. 関連国際会議・シンポジウムの紹介

特になし。

9. 次回大会について

- 神戸大学(鶴甲第1キャンパス)
期日:2021年9月14日(火)~17(金)
領域:素粒子論領域,素粒子実験領域,理論核物理領域,実験核物理領域,宇宙線・宇宙物理領域
- 東京工業大学(大岡山キャンパス)
期日:2021年9月20日(月祝)~23日(木祝)
領域:領域1~13(物性領域)

(※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては開催方法等が変更になる可能性があります。最新の情報は大会ホームページでご確認ください。)

10. 言語の英語化について **【審議事項】**

【これまでの経緯】

- 2019 年秋季大会のインフォーマルミーティングにおいて、留学生や外国人研究者の物理学学会参加を促進するために、シンポジウム講演の言語の英語化が議論された。審議の結果、シンポジウム講演の英語化に関して、領域委員会において領域 7 より提案することになった。
- 領域委員会に提案した結果、「英語化」について領域 7 における意見聴取を行い、次回領域委員会で審議することが決定された。
- これを受けて 2020 年秋季大会インフォーマルミーティングにおいて、下記 2 点を提案し、それぞれ意見を聴取した。
(1) 企画提案(招待講演, シンポジウム等)は、英語で行うことを推奨する

【意見】

- M1 にとっては英語の発表は難しそう。
 - 企画提案については、初学者の理解を進めるという趣旨に反する懸念がある。
- (2) 企画提案、一般講演のスライドは英語を推奨する。

【意見】

- 発表が日本語であっても、スライドが英語だと外国人の方にとっては理解しやすい。

これらの意見を踏まえ、領域代表・副代表・運営委員で協議することとした。

【今大会】

岡田先生から領域委員会での英語対応に対する協議結果について下記が報告された。

- 初学者にとって敷居が高くなるなどの理由で他の領域では英語化反対の意見が多い。
- その後各領域で引き続き英語化について審議するよう要請があった。

これと、昨今留学生が増える傾向にあり、これにより物理学学会での発表が減ってしまう懸念がある現状を踏まえ、下記を提案し、意見を聴取した。

【提案】

- 領域 7 の独自の英語化対応として「発表スライドを英語で作成するよう協力お願いする(発表自体は日本語)」。
- 次のステップにつながる“実験”となるよう、次回秋季大会で発表スライドの英語化をお願いし、その後教員、学生、留学生を対象にアンケートを実施し、広く意見を聴取する。

【意見】

- スライドの英語化には賛成だが、もし実施する場合は事前に周知することを徹底した方がよい。メーリングリストだけでなく、関係者(留学生を抱える研究室)にメールを直接送ることや、学会のホームページやプログラム、または申し込みの際に英語化対応に関する情報を明記することが考えられる。
- 年次大会と秋季大会でどちらかは英語を推奨することも考えられる。

- 学生にとって英語は敷居が高いが、スライドだけ英語にするのは英語化導入の最初のステップとして丁度良く、教育的である。
- 全て英語スライドにしてしまうと学生だけでなく、異なる分野の方々に対しても難しく感じさせてしまう懸念があるので、「日本語でキーワードを入れる」など適宜工夫が必要。

【秋季大会に向けて】

これらの意見を踏まえ、領域7の英語化対応として、下記の“実験”の検討を推進する。

- 次回秋季大会では、スライドの英語化を推奨する（適宜日本語を混ぜても構わない）こととし、英語スライドを用いた発表の増加を目指す。

11. 学生優秀発表賞について【審議事項】

【これまでの経緯】

- 2016年秋季大会から大学生・大学院生等を対象とした 優秀ポスター賞の表彰を実施。
【目的】：学生優秀発表賞を設けることで、領域7における大学院生の発表数増加、議論・情報交換の活性化を目指す。
- 2018年秋季大会から物理学会の正式な賞となり、「学生優秀発表賞」と名称が変更。
- 2019年年次大会から年2回ポスター発表のみ審査対象。
- 学会発表申込時に申請した者に対して審査を実施。
- 2019年度ポスター発表を受けて、その後の方針を検討するために 以下のような2度のアンケートが実施された。
 - 1回目：学生賞の審査員に、審査後にアンケートを依頼
 - 2回目：事前に領域 ML にて、関係者にアンケートを依頼
- 第75回年次大会（2020年）の現地開催中止後、アンケート結果が領域7HP上で紹介された。
- その後、領域代表・副代表・運営委員でアンケート結果を協議し、以下の二つの意見に集約した。
 1. 審査のやりやすさという点から口頭発表よりもポスター発表に利点があるという意見が多数派である。
 2. 一方で質の高い研究発表は口頭で多くの人に聞いてもらった方が良いという意見も多い。
- これを踏まえ2020年秋季大会では下記を審議内容とし意見を求めた。
【審議内容】：「秋季大会でポスター審査を行い、受賞者には次の年次学会で記念講演を行う」
 - これに対し、「若手奨励賞 の受賞講演と合わせて、若手が並ぶアグレッシブなセッションができて良い」等の 賛成意見が多く上がった。

これらの意見を踏まえ、領域代表・副代表・運営委員で協議することとした。

【今大会】

領域代表・副代表・運営委員で協議した下記 2 点を提案し、意見を聴取した。

【提案】

1. 口頭発表審査の可能性を協議し、公平性の観点からポスター審査を継続することを提案した。
2. 賛成意見の多かった記念講演の可能性を協議し、新たな試みとして IM での表彰式の際に研究成果を紹介していただく場を設けた。
就職活動、卒業してしまう等で都合がつかない可能性や、学生への負担が大きいなどの懸念を踏まえ、同一学会でインフォーマルに研究成果を知っていただく可能性を模索した。

【意見】

1 に対して

- (応用物理学会を例に) 多少分野が異なっても 1 つのセッションにまとめれば口頭発表でも審査可能である。
- 学生優秀発表賞の目的の 1 つは、学生にインセンティブを与えることである。現状ポスター発表のみを審査対象としているが、口頭発表を含めればより多くの学生が審査対象となり、学生がモチベーション高く学会に臨むことができる。将来的には発表する学生全員にそのようなインセンティブを与えることができれば、学生の励みになると考えられるので、今後も(1-2 年かけて)口頭発表の審査方法の模索、検討を続けていくことが重要である。

2 に対して

【聴衆から】

- 学生優秀発表賞を聞く機会がなかなかないので良かった。

【受賞者から】

- 大変な部分もあったが、このような発表の機会は今後修士論文発表など必ずあるので、練習にもなり自分のためになった。
- 自分の研究を発表できる機会だったので良かった。

【受賞者指導教員から】

- 受賞決定の報告から、IM までの期間が短かったため(実質 2 日間)、準備は大変そうだった。今後この企画を続ける際は、あらかじめ IM で記念発表がある旨を通知した方が良い。
- ポスター形式ではなく、スライド形式の資料でポスター発表していたため、練習する時間は必要だったが、口頭発表に移行するのはそこまで難しくはなかった。

その他(今後の領域7の運営に関して)

- ここ数年で物理学会会員が大幅に減少し、また領域7での発表件数も減少傾向にある。今後領域7を盛り上げていくためには、運営員でこの状況を分析し、何等かの方策を講じる必要がある。